

かなみつ じゅん

金光 淳

現代社会学部 教授
博士(社会学) / 文学修士 /
シカゴ大学 / 早稲田大学☐ ホームページ URL
なし

主な研究業績

- 受注プロジェクト 大学コンソーシアム京都指定課題「大学コンソーシアム加盟大学が地域ネットワークの中で果たす役割構造の社会ネットワーク分析」
- 無形資産産出を担う創造階級の空間的編成とその効果—「ポストコロナ社会」のソーシャル・イノベーションに求められるもの(岩浪「思想」第1156号、2020年7月刊(予定))
- 「ポストコロナ社会のテレワーク(仮題)」(明石書店より今秋出版予定)に関する書著を執筆中
- 金光淳、2018、「瀬戸内国際芸術祭は地域イメージをどのように表象させるのか? 鳥連想イメージのネットワーク分析」、数理社会学会「理論と方法」、Vol.25、No.3 (in press)
- 金光淳、2017、「e ホームワーク」の実態と可能性: 人生100年時代の「在宅労働」の役割と行方」、京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」、Vol.31、pp67-94.
- 金光淳、2016、「都市ブランドは文化資本、創造資本と近接性で決まる: 地理空間次元を組み込んだ多重都市データによる分析」、京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」、Vol.29、pp27-50.
- 金光淳、2016、「ソーシャル・キャピタルと創造資本で経済の閉塞感を打破!」、月刊公明、vol.126、pp.28-33
- 金光淳、2015、「コーポレート・レビュー」は企業統治とパフォーマンスを向上させるか: 企業ソーシャル・キャピタルに注目した企業統治研究のフロンティア」、京都産業大学総合学術研究所「総合学術研究所報」Vol.10、pp.13-37.
- 稲葉陽二 / 大守隆 / 金光淳 / 近藤克則 / 辻中豊 / 露口健司 / 山内直人 / 吉野諒三、2014、「ソーシャル・キャピタル」 「きずな」の科学とは何か—、ミネルヴァ書房.
- 金光淳、2014、「京都の都市ブランドの源泉をさぐる: 観光社会学的アプローチ」、総合学術研究所報、京都産業大学総合学術研究所、vol.9、pp.33-55.
- 金光淳・稲葉陽二、2013、「企業ソーシャル・キャピタルの企業業績への効果—役員内部構造と企業間役員 派遣ネットワーク構造分析アプローチ」、京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」Vol.22、pp.133-155.
- 金光淳、2013、「『第四の消費』時代の消費者クラスターのマッピング: ハイブランド/ローブランドのファッション関連アイテム購入金額パターンのクラスター分析」京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」Vol.22、pp.111-132
- 金光淳、2013、「高次元デザイン・ドリブン・イノベーションとしての『数楽アート』—京都企業へのインフレーション—」、京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」Vol.23、pp.35-53
- 金光淳、2012、「ライフスタイル・カテゴリーのペルソナ化を利用した三部グラフモデル: ハイ・ファッション・ブランドの選択構造」、京都産業大学経営学部「京都マネジメントレビュー」Vol.20、pp.93-109.
- 金光淳、2011、「経営・ネットワーク理論とソーシャル・キャピタル」稲葉陽二ら編「ソーシャル・キャピタルのフロンティア—その到達点と可能性」ミネルヴァ書房、pp81-108

特許情報

- 吉開範章との共同特許「通信ネットワーク設計方法及びプログラム及び記録媒体」

研究テーマ Research theme

あらゆる種類のネットワークに注目し、その分野で斬新な知見を導びく研究

概要 Overview

情報化が高度に進み、経済社会がグローバルに大きく変化する中、ソーシャルネットワークや社会ネットワークに注目することは社会生活はもちろんのこと、ビジネスに欠かせない視点となりつつある。これに照準を合わせたネットワーク科学は自然科学、社会科学、人文科学を横断する汎用的アプローチである。ネットワーク分析は近年注目されている「ビッグデータ解析」の一部として重要な役割を果たしている。

私はソーシャルネットワーク分析という解析方法の専門家として、多岐にわたる領域(経営学、観光学、ブランド調査、通信工学、国際関係、科学書誌学、文化社会学)でも数多くのネットワーク解析を行ない、多くのプロジェクトに参加し成果を残してきた。

他方ソーシャルキャピタル研究の専門家としても様々なプロジェクトに参加している。特に企業のソーシャルキャピタル調査を多く行っており、医療科学研究所の「ソーシャルキャピタルと健康」のプロジェクトの報告書メンバーなどをつとめた。また科学社会学の知見から未来工学研究所の『日本の科学技術予想調査=デルファイ調査』にも参加した経験もある。

自らが代表となる科研費プロジェクトとして、挑戦的萌芽研究として「ステイタスに基づいた都市ブランドパワーモデルの開発と都市ブランドマップの作成」と基盤研究(B)として「企業ソーシャル・キャピタルに注目した企業統治研究の新展開」を行った(後者はミネルヴァ書房より出版予定)。近年は関心を現代アートに移し、企業と現代アートとの関係、アート・フェスティバルを分析している。さらに本年度より観光学分野で「現代アートの『異化効果』」に注目した、アートツーリズムによる認知構造転換の実証」で基盤研究(C)の科研費を獲得し、瀬戸内国際芸術祭において投稿された Instagram 画像解析と社会ネットワーク分析を結合させ、この分野において革新を起こそうとしている。そこでは言語ネットワークや意味ネットワークの分析、アートワールドや芸術作品のネットワークなどの人文分野における社会ネットワーク分析に新境地を見出している。

応用分野 Application areas

☐ 人文科学:

言語学(言語[語彙]ネットワーク解析)、文化科学(文化接触ネットワーク解析)、歴史学(歴史上の出来事社会ネットワーク解析)、論理学・思考学(ネットワーク・マッピングによる発想解析)

☐ 社会科学:

政治学(政治行動とソーシャル・キャピタルの分析、国際関係の分析、世界システム分析)、法学(犯罪者ネットワークの解析)、経済学(企業間ネットワーク分析、産業クラスターの解析)、経営学(組織構造分析、マーケティング調査、特許ネットワークの解析、ナレッジ・マネジメント調査)、公共経営(NPO ネットワーク調査)、社会福祉(ソーシャル・サポート調査)、公共政策(政策ネットワーク分析)、観光学調査、テレワーク、地域分析、ポストコロナ社会

☐ 自然科学:

病理学、物理学(複雑系としてのネットワーク科学)、生物学(脳神経ネットワーク解析)、工学(ネットワーク最適化)、情報工学(ビッグデータ解析、ウェブ解析、SNS 解析)、計量書誌科学

共同研究等へのニーズ Need for joint research

現在の関心としては、ビジネス、学術的なシーズ提供よりも、地域活性化のための地域デザイン、観光学などの実務家、行政とのコラボレーションの実践的ニーズを感じています。ソーシャルキャピタル論、ネットワーク理論を応用した「絆作り」を地域で実験することを希望します。企業よりも NPO、研究機関、自治体とのコラボを求めます。